

[成果情報名] スイートピー新品種「ピュアクリーム」の育成

[要約] 「アーリー・ホワイト」と「ミセス・ダグラス・マッカーサー（以下「マッカーサー」）」を交配し、スイートピー新品種「ピュアクリーム」を育成した。本品種は冬咲きで、花色がクリーム色であり、多収性で切り花の秀品率が高い。年内早期から開花させるための最適種子冷蔵期間は、20日前後である。

[キーワード] スイートピー、新品種、冬咲き

[担当機関名] 暖地園芸センター 育種部

[連絡先] 0738-23-4005

[部会名] 野菜・花き（野菜作物）

[分類] 普及

[背景・ねらい] 当センターでは、これまでに和歌山県のスイートピーオリジナル品種として、淡いピンク系の花色で、天候不順等の日照不足でも落蕾が少ない冬咲き4品種を育成した。さらに花色の多様化を図るため、新たな花色の品種育成に取り組む。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

1995年、「アーリー・ホワイト」に「マッカーサー」を交配し、その後個体選抜と系統選抜を繰り返し、2007年に新品種「ピュアクリーム」を育成した。

2. 開花特性

無冷蔵の場合、「ピュアクリーム」の開花時期は、他の冬咲き品種よりやや遅い。花色はクリーム色で、「マッカーサー」より花柄長が長く、着花輪数が多い（表1）。

3. 収量特性

「ピュアクリーム」は、県内主力品種である「ステラ」や「マッカーサー」よりも株当たり収穫本数が多く、切り花の秀品（4P2L：切り花長が45cm以上で4輪以上着蕾）率が高い（図1、2）。

4. 種子冷蔵期間

開花揃いを良くし、市場性の高い着花輪数4～5輪の切り花を年内早期から収穫するための最適種子冷蔵期間は、20日前後であると考えられる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2007年3月、種苗法に基づく品種登録に出願し、同年8月に出願公表された。

2. 種子冷蔵による開花促進効果や切り花品質への影響は、は種後の高温遭遇等その年の気候条件により異なる。

3. 2007年度は県内2地域で5aの試作を行っており、今後、県内生産者への普及を図る。

[具体的データ]

表1 供試品種の開花特性

品種名	開花日 (月/日)	開花節位 (節)	花柄長 ^Z (cm)	花柄径 ^Z (mm)	着花輪数 ^Z (輪/本)	花径 ^Z (cm)
ピュアクリーム	2/22	46.9	51.1	3.6	6.1	4.8
アーリー・ホワイト	2/10	42.8	56.6	4.2	6.1	5.0
ミス・タ・ガラス・マッカーサー	2/15	44.0	47.1	3.1	3.8	4.8

Z: 第5花柄について調査

耕種概要: は種日: 2006年9月15日、種子冷蔵期間: 0日間、自然日長、最低夜温: 5°C
1株2本仕立て、株間20cm、条間40cmの2条植え

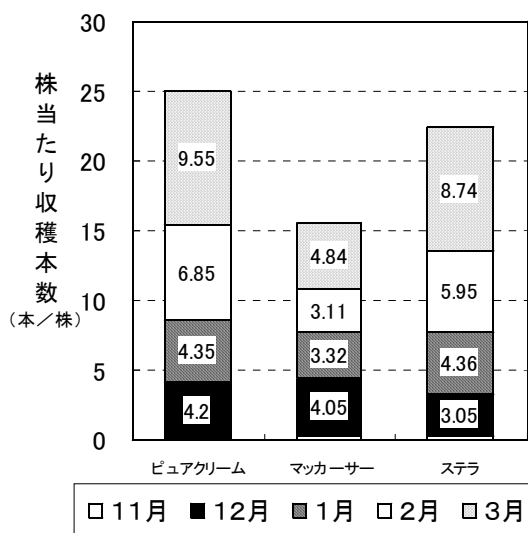


図1 供試品種の時期別株当たり収穫本数

は種日: 2005年9月14日
種子冷蔵期間: 16日、「ステラ」は30日
自然日長、最低夜温: 5°C
1株1本仕立て、株間20cm、条間40cmの
2条植え
初期の花蕾は株養成のため適宜除去

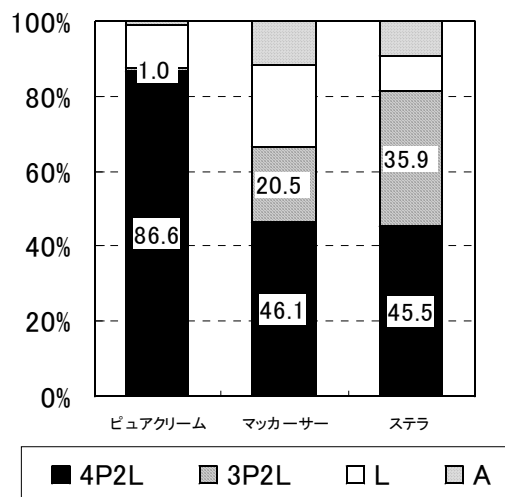


図2 供試品種の切り花の階級別割合

は種日: 2005年9月14日
種子冷蔵期間: 16日、「ステラ」は30日
自然日長、最低夜温: 5°C
出荷規格: 4P2L: 全長45cm以上、4輪以上開花
3P2L: 全長45cm以上、3輪以上開花
L: 全長35cm以上、3輪以上開花
A: 全長30cm以上、2輪以上開花

表2 「ピュアクリーム」の種子冷蔵期間と開花および収穫本数

冷蔵日数 (日)	花柄長 (cm)	花柄径 (mm)	着花輪数 (輪/本)	開花日 (月/日)	開花節位 ^Z (節)	収穫本数 (本/株)	年内収量 (本/株)
0	48.3	3.6	6.0 ± 0.2 ^Y	2/26 ± 2.0 ^Y	47.5	11.4	0
10	48.7	3.3	5.3 ± 0.3	12/30 ± 6.8	30.6	24.1	2.2
15	50.5	3.4	5.3 ± 0.3	12/27 ± 7.9	25.8	21.2	2.2
20	46.3	3.1	4.6 ± 0.3	12/5 ± 1.4	16.5	24.1	4.0
30	48.1	3.2	3.9 ± 0.2	12/4 ± 0.7	16.3	24.8	6.2

Z: 初期の花蕾は株養成のため適宜除去した。

Y: 平均値±標準誤差

耕種概要: は種日: 2006年9月15日、自然日長、最低夜温: 5°C

1株1本仕立て、株間20cm、条間40cmの2条植え

収穫調査: 2007年3月29日まで

[その他]

研究課題名: 優良園芸品種の育成と種苗増殖技術

予算区分: 県単

研究期間: 平成17~21年

研究担当者: 村上豪完、藤岡唯志、古屋挙幸

発表論文等: なし